

2022 年度

事業報告

2022 年 4 月 1 日から

2023 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、2020 年に創設 50 周年の節目を迎え、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、2022 年度の事業を実施した。

「慈しみの実践: 共通の未来のために——つながりあういのち」の総合テーマのもと、(1) ネットワーク化、(2) 啓発・提言活動、(3) 平和教育・倫理教育、(4) 人道的貢献を行動指針として事業を展開してきた。2022 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、オンラインや SNS を活用しながら、第 10 回 WCRP 世界大会の「リンダウ宣言」をもとに策定された行動計画に基づき、ACRP で採択された「東京宣言」、WCRP 創設 50 周年記念事業で掲げた「アジェンダ 2030」の実行及びウクライナ情勢への対応と、5 つの特別事業部門（タスクフォース）①ストップ！核依存、②気候危機、③和解の教育、④人身取引防止、⑤災害対応を実施し、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨(目的)

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンドゥー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

2022年度の事業は以下の通り。

①諸宗教平和円卓会議(第1回東京平和円卓会議)

期 日：2022年9月21日～23日

場 所：東京都内

概 要：

WCRP/RfP国際委員会とWCRP日本委員会の共催で、『戦争を超え、和解へ』諸宗教平和円卓会議」第1回東京平和円卓会議を開催。同国際委員会のアッザ・カラム事務総長をはじめ、各国の諸宗教評議会の代表者、紛争地域の宗教指導者や政府関係者、政治家ら25カ国から約110人が参加した(オンライン参加者含む)。

この円卓会議は、戦争・暴力下にある国々の宗教指導者らが東京に集い、紛争後における宗教の役割について、それぞれの見解と洞察を交換し、社会的結束や和解に向けた多様な努力など、実践的な経験と活動を共有するもの。ブルキナファソ、エチオピア、ミャンマー、ロシア、南スーダン、シリア、ウクライナの宗教者に加えて、WCRP/RfP国際委員会、同日本委員会の役員や地域委員会からの代表者がそれぞれの宗教を代表するかたちで参加した。日本委員会からは、庭野日鑛会長(立正佼成会会長)、戸松義晴理事長(浄土宗総合研究所副所長・浄土宗心光院住職)、黒住宗道理事(黒住教教主)らが出席した。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

②アジア宗教者平和会議(ACRP)の活動への参画

・ACRP執行委員会への参画

5月10日～11日にACRP執行委員会がオンラインで開催され、日本委員会からACRP執行委員が参加した。執行委員会では2021年度の事業・決算報告、2022年度の事業・

予算計画が決定され、第9回 ACRP 大会（2021 年開催）で採択された東京宣言を実行するためのアクション・プランが策定された。

・アジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWoFN）オンラインセミナーへの参画

第1回セミナー

期 日：2022 年 9 月 29 日

場 所：オンライン

概 要：

「アジアにおける人身取引問題に取り組む：課題とベストプラクティス（最善の実践）」をテーマに開催され、アジア・太平洋地域から約 60 人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」11 月号に掲載。

第2回セミナー

期 日：2022 年 11 月 29 日

場 所：オンライン

概 要：

「気候変動への取り組みを進めるための私たちの信仰と精神性」をテーマに開催され、アジア・太平洋地域から約 40 人が参加した。セッション 2 では、各国の気候変動への取り組みが紹介され、WCRP 日本委員会気候危機タスクフォースが展開する「いのちの森づくり」活動が紹介された。内容は、機関誌「WCRP」12 月号に掲載。

第3回セミナー

期 日：2023 年 3 月 9 日

場 所：オンライン

概 要：

「アジアでの平和構築と和解に女性の参画を促す」をテーマに開催され、アジア・太平洋地域から約 60 人が参加した。平和研究所所員の松井ケティ教授（清泉女子大学教授）が発題を行うとともに、河田尚子女性部会副部長らが参加した。内容は、機関誌「WCRP」2023 年 4 月号に掲載。

③韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり『東北アジア平和共同体構築のための課題』をテーマとするセミナーが開催された。概要は、下記「3. セミナー・スタディーツアー」の通り。

④アフガニスタン難民受入

2021 年 8 月にアフガニスタンでタリバン政権が樹立されて以降、アフガニスタン国内で身の危険に晒され、諸外国へと一時避難を求める人々がいる。WCRP 日本委員会は、WCRP 関係者と日本の NGO からの緊急要請を受けて、同 11 月上旬よりアフガニスタンからの避難民家族を日本で受け入れており、2022 年度も継続して支援を行った。

⑤気候正義のための宗教間会議

4 月 21 日、グリーンフェイス（GreenFaith）主催、WCRP 日本委員会、気候ネットワ

ークなどの共催で、気候変動の脅威に対する認識を高め、精神的な知恵と価値観を反映した気候変動対策を人々に呼びかけるための宗教間会議が開催された。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

(2) ミャンマー支援

2021年2月の暴力的な政変によって多くのミャンマー市民が犠牲になったが、それに対してWCRP日本委員会はミャンマー支援募金を実施し、WCRPミャンマー委員会が行うミャンマー国内の脆弱な人々を支援するための事業、ヘルスサポート事業に対して財的支援を継続して行った。内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

(3) ウクライナ情勢関連

2022年2月24日のロシア軍による軍事侵攻により危機的な状況に陥ったウクライナ情勢に対し、3月15日から、ウクライナから近隣国へ避難をした人々の支援を行うために緊急人道支援募金を呼び掛けた。学習会を開催するとともに、ウクライナ隣国でウクライナ避難民を支援する団体に財的支援を行ったほか、WCRP日本委員会からポーランドへ避難民支援のためのボランティア隊を派遣。さらには紛争解決と紛争後の復興へ向けた諸宗教平和円卓会議を東京で開催した(上記(1)－①諸宗教平和円卓会議を参照)。

①学習会

2022年4月9日に、WCRP/RFP国際トラスティーズ・日本グループと国際宗教連盟(IARF)日本チャプターとの共催で開催し、約500人が参加した。上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科の植木安弘教授が「ウクライナ危機への国際社会の対応と市民の役割」と題して基調講演、日本山妙法寺の寺沢潤世僧侶、WCRP/RFP国際トラスティーズ・日本グループの田中常隆代表、WCRP/RFP国際委員会の杉野恭一前副事務総長、IARF日本チャプターの杉山利予氏が報告した。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

②ボランティア隊派遣

ポーランド国内でウクライナ避難民の受け入れや支援を行っているフォコラーレ運動、カリタス、Salam Lab(平和ラボ)などの団体と協力し、避難民の方々との交流ワークショップや物資支援などを行った。第四次隊まで22人を派遣、概要は以下の通り。内容は、機関誌「WCRP」8・9・11月号に掲載。

第一次隊	2022年7月15日～7月31日	3人
第二次隊	7月31日～8月14日	5人
第三次隊	8月14日～8月28日	6人
第四次隊	10月2日～10月16日	8人

(4) トルコ・シリア地震への支援

2023年2月6日のトルコ南部で発生した大地震を受けて、WCRP日本委員会は、緊急支援募金の呼びかけを行うとともに、シリア国内で支援活動を行う、White Helmets(ホワイトヘルメット)とMolham Volunteer Team(モルハムボランティアチーム)の2つの市民団体に支援金の緊急拠出を行った。内容は、機関誌「WCRP」2023年3月号

に掲載。

(5) 「災害」への取り組み

① 災害復興支援

令和元年の大型台風により被災した「社会福祉法人福音会ワークセンター麦」へ支援を行った。

② 新型コロナウイルス感染症で影響を受けたコミュニティを支援する *RfP* フィリピン委員会の活動に対し、財的支援を行った。

③ 災害対応タスクフォース会合を4回開催し、事業に関する協議を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 平和大学講座

期 日：2023年3月14日

場 所：賀茂別雷神社（京都）・オンライン

概 要：

『戦争を超え、和解へ——諸宗教は訴え行動する』をテーマに開催し、宗教者、研究者、一般市民ら約100人が参加した。筑波大学名誉教授の塩尻和子氏が『人類が生き残るために「敵を愛すること」は可能か?』と題して基調発題を行った。パネルディスカッションでは、竹村牧男平和研究所所長（東洋大学名誉教授）をコーディネーターに、神谷昌道氏（アジア宗教者平和会議（ACRP）シニアアドバイザー）、松井ケティ所員（清泉女子大学教授）、田辺寿一郎氏（早稲田大学留学センター講師）がパネリストとして登壇した。内容は、機関誌「WCRP」2023年4月号に掲載。

(2) 新春学習会

期 日：2023年1月26日

場 所：立正佼成会法輪閣／オンライン

概 要：

『戦争を超え、和解へ 諸宗教協力に基づく平和構築の実践とは』をテーマに約200人の宗教者、市民らが参加した。学習会では、黒住宗道理事（黒住教教主）の開会あいさつのあと、根本昌廣氏（WCRP/*RfP* 国際副事務総長）による第1回東京平和円卓会議（2022年9月）の開催経緯と成果などの発表や、安勝熙氏（WCRP 日本委員会平和推進部長）による「ウクライナ難民人道支援ボランティア」の報告が行われた。続いて、江戸東京研究センター特任教授で法政大学前総長の田中優子名誉教授が「江戸時代の価値観と幸福」をテーマに基調講演に立った。その後、橋本伸作活動委員（大本東京本部東京宣教センター長）をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、菊地功評議員（カトリック東京大司教区大司教）、庭野光代理事（立正佼成会次代会長）、尾崎元氏（共同通信社「メディア戦略情報」編集長）がパネリストを務めた。最後に、戸松

義晴理事長が閉会あいさつを述べた。内容は、機関誌「WCRP」2023年2月号に掲載。

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期 日：2023年2月11日

場 所：ソウル（韓国）・オンライン

概 要：

2009年から日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて」を基本テーマに行われているセミナーで、2022年度は『東北アジア平和共同体構築のための課題』をテーマに開催。今回は新型コロナウイルスの出現以降、初めて対面とオンラインを併用した開催となり、日本・韓国・中国の宗教者や学者ら72人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」2023年3月号に掲載。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

ストップ！核依存タスクフォースを中心に核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組みを行った。

① 核兵器禁止条約第1回締約国会議に向けての活動

2021年1月22日の核兵器禁止条約の発効を受けて、2022年6月にオーストリア・ウィーンで核兵器禁止条約第1回締約国会議が開催され、WCRPとして以下の活動を行った。内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

- ・「核兵器禁止条約第1回締約国会議に向けての声明」の発表と政府への提出
6月2日に上記の声明文を発表。同16日にストップ！核依存タスクフォース委員らが外務省を訪問、林芳正外務大臣に声明文を手渡した。

- ・核兵器禁止条約第1回締約国会議に参加

期 日：2022年6月21日～23日

場 所：オーストリア・ウィーン

概 要：

WCRP 日本委員会から神谷昌道氏（ストップ！核依存タスクフォースメンバー、ACRP シニアアドバイザー）、橋本高志 WCRP 日本委員会平和推進副部長、村山浩代同事務局員が参加した。また、6月18日から19日には核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) が主催する「核禁フォーラム」、20日にはオーストリア政府主催の「核兵器の非人道性に関する国際会議」に参加した。

② 第10回核不拡散条約 (NPT) 再検討会議への参加

第10回核兵器不拡散条約 (NPT) 再検討会議が、8月1日から26日まで、ニューヨークの国連本部で開催され、ストップ！核依存タスクフォースの神谷昌道氏が参加

した。内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

③ 『パグウォッシュ会議と「非戦」の思想』連続講座シリーズ

2018年より日本パグウォッシュ会議、明治学院大学国際平和研究所(PRIME)、WCRP日本委員会の三者が共催し連続講座を開催している。

・第1回

期 日：2022年6月29日

場 所：オンライン

講 演：川崎哲氏 (ICAN 国際運営委員、ピースボート共同代表)、
高垣慶太氏 (ICRC ユース代表、早稲田大学生)

テーマ：『核兵器禁止条約を生かす』

・第2回

期 日：2022年7月30日

場 所：オンライン

講 演：Peter Kuznick 氏 (アメリカン大学教授)

テーマ：『核時代における平和と民主主義：日米の市民はウクライナ戦争から何を
学び取るべきか』

・第3回

期 日：2023年1月7日

場 所：オンライン

講 演：大久保賢一氏 (反核法律家協会会長、核兵器廃絶NGO連絡会共同代表)

テーマ：『「迫りくる核戦争の危機と私たち」—核兵器廃絶と9条の世界化を求めて—』

内容は、機関誌「WCRP」2023年2月号に掲載。

・第4回

期 日：2023年2月27日

場 所：オンライン

講 演：朝長万左男氏 (長崎被爆者手帳友の会会長)

テーマ：『いま被爆者がアメリカの市民に直接に訴えることの意義』

④ 核兵器廃絶に向けた学習会

期 日：2022年10月29日

場 所：オンライン

概 要：

ストップ!核依存タスクフォース主催による学習会が、『核に依存しない世界をめざして—宗教対話・協力による新たな貢献—』をテーマに開催され、約100人が参加した。はじめに、波田スエ子氏(立正佼成会広島教会会員)が被爆証言に立ち、WCRP日本委員会に寄せられた中学一年生からのメッセージを紹介。『宗教が持つ可能性』のセッションでは、ベアトリス・フィン氏(核兵器廃絶国際キャンペーン事務局長)のビデオメッセージが披露され、続いて鈴木馨祐氏(衆議院議員/核軍縮・不拡散議員連盟=PNNND=日本事務局長)、小林祖承氏(天台宗参務/総務部長)、徳増公明

理事（日本ムスリム協会前会長）が発題した。内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

⑤ 広島・長崎平和関連行事への参画

8月5、6日にアジア宗教者平和会議（ACRP）のデスモンド・カーヒル実務議長と篠原祥哲 WCRP 日本委員会事務局長が広島市を訪問し、原爆慰霊関連行事に出席した。同8日には、長崎県宗教者懇話会主催の第50回原爆殉難者慰霊祭に植松誠理事長（日本聖公会主教）、深田章子氏（円応教海外布教センター所長）が出席し、植松理事長が「慰霊のことば」を述べた。9日は、長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加した。

⑥ 平和首長会議との連携

核兵器廃絶を目指す平和首長会議との意見交換を行い、今後の協働を確認した。

⑦ ストップ！核依存タスクフォースの会合を6回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 気候変動に向けた取り組み

① WCRP いのちの森づくりプロジェクト

第8回 ACRP 大会（2014年、韓国・仁川開催）において、「一人が一本の木を植える」ことが提唱されたことを受け、地球温暖化対策の一環として、同プロジェクトを開始。埼玉県所沢市にある約1万平方メートルの土地に、埼玉県、所沢市、地元の住民による「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の協力を得て、植樹活動を実施した。宗教者の実践活動であり、また青少年への環境教育の場とすることを目的としている。2022年も、新型コロナウイルスの感染が収束しない中、事務局を中心に整備作業を行うとともに、次の行事を開催した。

4月2日に「タケノコ掘り」を開催し37人が参加した。7月13日には「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の地主の方々も参加し、「WCRP いのちの森づくり鎮守社安全祈願祭」を執り行った。11月19日には「植樹会」を開催し、約70人の参加者がコナラとアカマツの苗木12本を植えた。内容は、機関誌「WCRP」5・12月号に掲載。

② 感じる地球ワークショップ

期 日：2022年11月6日

場 所：立正佼成会普門エリア

概 要：

立正佼成会の有志職員と同大田教会が共催した「食べて遊んで、社会貢献！こども秋まつり&WCRP 一乗フェスタ」に出展し、デジタル地球儀「感じる地球」を活用した「感じる地球ワークショップ」を行った。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

③ 気候危機タスクフォースの会合を3回開催し、事業についての協議を行った。

(3) 「和解のための教育」への取り組み

① 「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」及びフォローアップ

和解の教育タスクフォースは、身近な親子間などの関係から国際的なレベルまで、対立を乗り越え和解をもたらす人材を育成することを目的に、「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」を開催している。2022年度は、第1期（2017～2018年）・第2期（2020～2021年）セミナー参加者を中心に平和構築に関心がある人々の交流を通してのネットワーク化を図るとともに、ファシリテーターとしての知見と能力をさらに高めていくためのフォローアップセミナーを行った。

・2022年度第1回フォローアップセミナー『ともに生きる』

期 日：2022年5月7日～8日

場 所：アジア学院（栃木県）

概 要：

荒川朋子・アジア学院校長、ジェフリー・メンセンディーク教授（桜美林大学）らを講師に迎え、アジア学院の豊かな自然の中でフードライフをテーマに講義と農作業現場の見学と体験を行った。また、食事作りを通じた食といのちの大切さを体験し、いのちの尊厳、多文化共生等を学び、ともに生きることについて考えた。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

・2022年度第2回フォローアップセミナー『いのちが大切にされる社会を目指す』

期 日：2022年7月30日

場 所：佼成図書館視聴覚ホール（東京）

概 要：

伊藤高章氏（上智大学グリーンケア研究所客員所員・佼成病院チャプレン）が「いのちが大切にされる社会を目指す」をテーマに講演を行った。その後、第2期セミナー修了生が、現場での実践に向けてワークショップの企画と実施を行い、ファシリテーションのスキルアップを図るとともに、参加者同士がコメントし合うことによる磨き合いが行われた。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

・2022年度第3回フォローアップセミナー『つながる／つなげる』

期 日：2022年11月12日～13日

場 所：水俣（熊本県）

概 要：

本セミナーでは、チッソ水俣工場正門など関連場所を訪問し、熊本大学の石原明子准教授が『水俣病の概要とそこから生じたもの』をテーマに講演を行った。その後、水俣病資料館語り部の会の杉本肇副会長、胎児性水俣病患者の永本賢二氏、元チッソ水俣工場社員の浮島清己氏が体験談を語った。参加者は、水俣病当事者や関係者の体験に学び、水俣病によって生まれた対立から和解に至るまでのプロセスの過程や、平和創造の行動を生み出すファシリテーターとして活躍するため、過去に起きた問題を現在から未来へどのようにつなげるかというアウトプット（伝達）についてグループで議論し発表し合うことで、スキルアップを図った。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

- ② 第1期「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」（2017年7月～2018年11月）の記録集を作成した。

③ 和解の教育タスクフォース会合を4回開催し、事業に関する協議を行った。

(4) 人身取引防止への取り組み

国内外で人身取引の問題に取り組む団体と連携し、啓発・提言を中心に活動した。

① 現地学習会

期 日：2022年7月14日

場 所：安岐水産／ヒューマンリング協同組合（香川県）

概 要：

インドネシア技能実習生を受け入れている企業や管理団体を訪問して外国人技能実習制度について学び、宗教者のできる具体的な取り組みについて模索することを目的に開催された。学習会では、実習生が働く工場を見学した後、安岐麗子・安岐水産社長から技能実習生の受け入れの経緯や現状・課題について学び、その後、20～30代の実習生との懇談会を行った。また、実習生の監理団体の宮内和彦氏（ヒューマンリング協同組合代表）が講演を行い、同組合の実績や役目について述べた。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

② 「人身取引反対世界デー」に向けての声明文・動画配信

7月30日の人身取引反対世界デーによせて、人身取引根絶を求める声明文を発表、HPに掲載した。さらに、広く日本社会に向けて啓発を行うための動画を作成した。

③ 人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）への参画

人身売買禁止に取り組むNGOや研究者、法律家によるネットワークに加盟し、2カ月に1回程度、情報交換のため、会合に参加した。また、2月4日と同23日に「人身取引のない社会をつくる！～私たちの意識が法律、制度をつくる～」をテーマに開催されたJNATIPの連続オンラインセミナーに参画した。

④ 人身取引防止タスクフォース会合を4回開催し、事業に関する協議を行った。

(5) 「難民問題」への取り組み

・シリア難民留学生の受け入れ

2017年より、認定NPO法人難民支援協会（2021年7月より一般財団法人パスウェイズ・ジャパンが事業継承）と共にシリア難民を日本語学校の留学生として受け入れを実施している。5期生5人は当初2021年4月頃来日予定であったが、新型コロナウイルス蔓延のため2022年3月末に来日している。2023年3月末に東京都杉並区にてシリア、アフガニスタンの留学生交流会を開催した。

・J-FUN（日本UNHCR・NGO評議会）への参画

国連UNHCRや難民問題について活動するNGOsと2カ月に1回程度、情報交換のため会合に参加した。

・世界難民の日SNSキャンペーンへの参画

6月20日の「世界難民の日」を前にJ-FUN（日本UNHCR・NGO評議会）の有志でSNSを活用し動画リレーを実施、WCRP日本委員会も動画を配信するとともに企画運営に携わった。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。2022年度は、以下の通り9回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約500部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約400部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

(1) 研究会

① 第1回研究会

期 日：2022年4月19日

場 所：オンライン

発表者：ホアン・マシア（平和研究所所員、元上智大学教授、イエズス会司祭）

テーマ：「教皇フランシスコ「われわれ皆兄弟」にみる戦争反対論」

内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

② 第2回研究会

期 日：2022年5月17日

場 所：普門メディアセンター（東京）・オンライン

発表者：金子昭（平和研究所所員、天理大学おやさと研究所教授）

テーマ：「対立と分断を乗り越えるロシアの宗教思想—キリスト教哲学者ニコライ・ベルジャーエフを手掛かりに—」

内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

③ 第3回研究会（外部招聘講師）

期 日：2022年6月7日

場 所：普門メディアセンター（東京）・オンライン

発表者：ウエンディ・クローカー（カナダ・メノナイト大学准教授）

テーマ：「メノナイト平和神学—その起源と今日的適用—」

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

④ 第4回研究会

期 日：2022年7月12日

場 所：普門メディアセンター（東京）・オンライン

発表者：松井ケティ（平和研究所所員、清泉女子大学教授）

テーマ：「教育者としての宗教者の行動：東北アジアの平和をめざして—未来の地域社会の平和をめざして—非暴力による対立・分断をのりこえるための宗教者の行動—」

内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

⑤ 第5回研究会

期 日：2022年9月27日

場 所：オンライン

発表者：森伸生（平和研究所所員、拓殖大学イスラーム研究所所長）

テーマ：「イスラームの倫理道徳規範に想う」

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

⑥ 第6回研究会

期 日：2022年10月18日

場 所：オンライン

発表者：竹村牧男（平和研究所所長、東洋大学名誉教授）

テーマ：「仏教における善悪の問題をめぐって——共感・共苦の倫理学を考える」

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

⑦ 第7回研究会

期 日：2022年11月29日

場 所：普門メディアセンター（東京）・オンライン

発表者：齋藤忠夫（平和研究所所員、東北大学名誉教授）

テーマ：「未来につながる持続的な食事とSDGs」

内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

⑧ 第8回研究会

期 日：2023年2月28日

場 所：オンライン

発表者：藤本頼生（平和研究所所員、國學院大学教授）

テーマ：「神社と社・モリの語義について」

内容は、機関誌「WCRP」2023年3月号に掲載。

⑨ 第9回研究会

期 日：2023年3月30日～31日

場 所：静岡県熱海市

発表者：西原廉太（平和研究所副所長、立教大学総長）

テーマ：「キリスト教とアイヌ民族の邂逅をめぐって——バチエラーのアイヌ伝道と聖公会のアイヌ観を中心に——」

(2) 所員会議を10回行い、研究事業や運営についての協議を行った。

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年のいのちに関する意識や考え方についての実態を研究・研鑽している。

(1) 女性部会40周年記念式典・パネルトーク

期 日：2022年9月10日

場 所：フォレストテラス明治神宮（東京）・オンライン

概 要：

女性部会の発足40周年記念式典およびパネルトークを開催し、宗教者、女性部会会員、市民など国内外から約100人（オンライン視聴者含む）が参加した。『ACTION WITH ALL BEINGS～すべての声なき声に寄り添う～』をテーマに、第1部の式典では森脇友紀子女性部会部会長（カトリック東京大司教区アレレヤ会会長）があいさつ。その後、「40年の歩み」の映像が放映され、植松誠理事長（日本聖公会主教）、アッザ・カラム WCRP/RIP国際委員会事務総長らの祝辞が述べられた。第2部のシンポジウムでは、稲葉奈々子教授（上智大学総合グローバル学部）、ドウ・イン・イン・モウ氏（WCRP/RIP ミャンマー委員会事務総長）、柴谷宗叔氏（性善寺／大徳山浄峰寺住職）が登壇し、パネルディスカッションを行った。松井ケティ女性部会委員がモデレーターを務めた。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

（2）「いのちに関する学習会」の開催

期 日：2022年7月2日

場 所：オンライン

概 要：

女性部会では、宗教を持つ諸宗教の女性の立場から、いのちの問題を考えるために、毎年「いのちに関する学習会」を開催し、教育・貧困・医療等さまざまな視点から学びを深めている。2022年度は『ジェンダー問題を知りたい！』をテーマに開催、約50人が参加し、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科の秋林こずえ教授が、「ジェンダーと平和」をテーマに講演を行った。さらに、質疑応答やグループワークを通して、感想を共有し学びを深めた。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

（3）女性部会委員会を5回開催し、事業や運営についての協議を行った。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るためのプログラムを実施している。

（1）CommuniHeart プロジェクト

2021年からスタートしたプロジェクト。若い女性の生きづらさという課題に対応するため、「自分らしい選択をし、自他の交わりを通して主体的に生きていくための」プロジェクト「CommuniHeart（コミュニハート）プロジェクト」を立ち上げた。この事業は苦しみや喜びを共有することで、人生の見方に変容を与え、生きる希望を促し、一人ひとりの心の拠り所となるコミュニティを形成するものである。そのコミュニティの中で「本来の自分」に出会うことで、喜びと自信を互いに見出し、激動の世界において、女性が翻弄されずに主体性を持ち、尊厳に溢れた生き方を選択できることを目的にセミナーを開催し、20人が参加した。全5回開催のうち、2021年度に3回、2022年度に2回開催した。内容は、機関誌「WCRP」5月・6月号に掲載。

① 第4回

期 日：2022年4月9日

場 所：オンライン

テーマ：『わたしと“社会”』

「女性と社会」「女性の生き方」「諸宗教の女性観」の3つのセッションから、女性が抱える課題や自分らしく生きること、女性の尊厳に着眼し、ディスカッションなどを交えながら参加者一人ひとりが自分と向き合った。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

② 第5回

期 日：2022年5月29日

場 所：普門メディアセンター

テーマ：『「痛み」や「悩み」と向き合う』

最終回となる第5回では、日本の伝統的な修復技法である「金継ぎ」から着想を得たワークショップを行うとともに、修了式が行われた。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

(2) アジア・ユースピースキャンプ2022

期 日：2023年2月5日～8日

場 所：フィリピン共和国・マニラ

概 要：

ACRP、ACRP ソウル平和教育センター (SPEC)、アジア太平洋諸宗教青年ネットワーク (APIYN)、WCRP/RIP フィリピン委員会の共催で『平和構築の担い手としてのアジアの青年たち』をテーマに開催された。アジア太平洋地域12か国から60人の青年が集い、青年部会からは齋藤佑助事務局長(立正佼成会習学部青年ネットワークグループ)ら2人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」2023年3月号に掲載。

(3) 青年の集い

期 日：2022年5月14日

場 所：立正佼成会付属佼成図書館視聴覚ホール

概 要：

『つなぐ・ひろげる Beyond Yourself!』をテーマに、約30人が参加した。『今は昔、諸宗教協力の秘話』と題し、青年部会の第5代幹事長を務めた三宅光雄氏(金光教泉尾教会教会長)が、これまでの世界大会や青年部会の諸活動における体験が語られた後、ワークショップが行われた。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

(4) 青年部会幹事会を4回実施し、事業や運営に関する協議を行った。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

(1) マスコミ関係者との情報交換

2022年度は、1つのプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付したほか、ホー

ムページに掲載した。また、8月2日に東京都でACRP実務議長のデスモンド・カーヒル氏の来日に伴う記者懇談会を行い、9月13日にはWCRP日本委員会新理事長就任について京都市で記者会見を開催した。さらに、2023年3月28日に広島市で5月10日「G7広島サミット 宗教者による祈りとシンポジウム」開催についての記者説明会を行った。

(2) ホームページ、SNS

ホームページを通して、事業報告や告知を行った。随時更新するとともに、広く一般に学習会等への参加を呼びかけ、その申し込みの受付、市民からの問い合わせに対応した。また、YouTubeチャンネルやInstagram、Facebook、Twitterを通して、広く一般に情報発信を行った。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月2,650部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連やNGO関係者並びにマスコミ関係者等、約1,300部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し年間購読料1,000円で送付した。

②2021年度活動報告

12月に「2021年度活動報告」を1,500部発行し、WCRP日本委員会関係者・会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に約1,000部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③平和のための宗教 対話と協力 15

平和研究所所員による研究報告を掲載。500部発行し、WCRP日本委員会役員や、図書館、マスコミ関係者等に400部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価(800円)で提供した。

④第1期「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」(2017年7月～2018年11月)の記録集を作成した。

⑤第9回アジア宗教者平和会議(ACRP)報告書

2022年9月に「行動するアジアの宗教コミュニティ：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして」をテーマに開催された第9回ACRP大会の報告書が発刊された。機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価(700円)で提供した。

⑥WCRP日本委員会アジェンダ2030

2022年12月にWCRP日本委員会創設50周年記念事業で掲げた「アジェンダ2030」のブックレットを発刊し、WCRP日本委員会関係者・会員や、NGO/NPO、マスコミ関係者等に無料配布した。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第24回評議員会

期日：2022年6月21日

場所：キャンパスプラザ京都（京都府京都市）／オンライン

②第25回評議員会

期日：2023年1月26日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

(2) 理事会

①第40回理事会

期日：2022年6月2日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

②第41回理事会

期日：2022年9月13日

場所：立正佼成会京都教会（京都府京都市）／オンライン

③第42回理事会

期日：2023年1月26日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

④第43回理事会

期日：2023年3月14日

場所：賀茂別雷神社（京都府京都市）／オンライン

(3) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会 6回開催

3. 監査に関する業務

2022年5月24日に実施

4. 財務に関する業務

- (1) 資産運用及び管理に関する業務
- (2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

(1) 什器備品、印刷物、公印等の管理他

(2) その他どの部門にも属さない事項の処理他

以 上

2023年5月18日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会